

平成30年度 第5回レフェリーアカデミーを終えて

氏名	梶原 康司	所属	福岡県協会
----	-------	----	-------

期 日	平成31年2月23、24日
会 場	トヨタスポーツセンター第1体育館
大会名	第10回ハンドボールチャレンジディビジョン
研修内容	①個人の技術向上「走力」「振る舞い」「競技規則の正しい運用」 ②正確な判定を目指すための要素を取得「位置取り」「視線」「予期・予測」 ③ゲーム運営「得点管理」「時間管理」「ベンチ管理」
第5回テーマ	① 『レフェリーとしての立ち振る舞い（正しいジェスチャー）を身につける。 ② 「インフォメーション」「ボディランゲージ」「段階的罰則」の使い方を身につける。

検証動画の詳細			
日時	平成31年2月24日	会場	トヨタスポーツセンター
対戦カード	東京トライスターズ vs SOCIO OSAKA		
ペアレフェリー	荒木 隆史		

試合経過時間 (動画時間)	現象の詳細・判定内容・改善点 など
0:52	<p>&lt;現象&gt; 東京トライスターズ（以下、赤）25番の回旋フェイントに対して、SOCIO OSAKA（以下、白）13番は抜かれた後も腕を巻き続けた。赤25はシュートまで振りきった。</p> <p>&lt;判定内容&gt; GR（梶原）側のLBのアウト割のため、GRの梶原の領域であったが、シュートがゴールインせず、ゴールキーパーズローを判定した。</p> <p>&lt;改善点&gt; 白13のDFは抜かれた後も腕で巻き続ける正当なDFではなかったため、警告をインフォメーションとして用いるべきだった。また同時にホールディングのジェスチャーで示すべきであった。DFの選手が説明を求めてきた場合、腕で巻き続けていた・正面での正当なDFではなかったと伝えるとよい。</p>
3:00	<p>&lt;現象&gt;</p>

<p>8 : 43</p>	<p>赤 25 のカットインに対して、白 22 は横から空中で接触した。</p> <p>&lt;判定内容&gt; GR（梶原）はシュートまで振り切り、シュートも外したため、ゴールキーパーズローを判定した。</p> <p>&lt;改善点&gt; 赤 25 のカットインに対して、白 22 は遅れて DF をした。また空中で横からの接触（競技規則 8 の 4 に該当）のため、7mスロー+2 分間退場を判定すべきだった。またプッシングのジェスチャーを示すことで選手も納得したかもしれない。</p> <p>&lt;現象&gt; 赤 25 の速攻のカットインに対して、白 2 は横から接触した。</p> <p>&lt;判定内容&gt; GR（梶原）はシュートまで振り切り、シュートは外れたのでゴールキーパーズローを判定した。</p> <p>&lt;改善点&gt; 赤 25 のカットインシュートに対し、白 2 の接触は横からであったので 7 mスロー+2 分間退場を判定すべきだった。 その前にも似たようなプレーが起きたが罰則をとらなかったため、同様な危険なプレーが起きたと考えられる。</p>
<p>12 : 27</p>	<p>&lt;現象&gt; 白 20 のシュートに対して、抜かれた赤 4 が伸ばした腕で横から接触した。</p> <p>&lt;判定内容&gt; シュートは決まったため、ゴールインを認めた。赤 4 に対して、プッシングによる警告を示した。</p> <p>&lt;改善点&gt; 赤 4 に警告を示したが、プッシングによる警告であることをジェスチャーを用いたほうが良かった。</p>
<p>14 : 34</p>	<p>&lt;現象&gt; 白 9 が赤 25 を抜き、カバーにきた赤 4 はシュート体勢の白 9 に対して横から接触した。</p> <p>&lt;判定内容&gt; シュートへの影響がないと判断し、そのままプレーを続けさせた。</p> <p>&lt;改善点&gt; 影響があまりなかったかもしれないが、赤 4 の DF は正当なものとはいえないので、段階的罰則による 2 分間退場を示すべかった。</p>

30 : 59	<p>&lt;現象&gt; 赤5がポストへのパスを狙うが、DFの足に当たる。DFは足を故意に出して、パスを防いだわけではない。</p> <p>&lt;改善点&gt; 今回はそのプレーで攻防が変わらなかったが、もし選手がキックボールをアピールしてきても、故意によるキックボールではないためプレーオンであることをボディランゲージを用いて示してあげるとよい。</p>
32 : 25	<p>&lt;現象&gt; 赤の攻撃中、白のポストに対するDFはユニフォームをつかみ正当なものではなかった。この試合でポストの絡みが激しくなったのは、今回が初めてだった。</p> <p>&lt;判定内容&gt; GR（梶原）はポストのユニフォームをつかんでいた白9に対して警告を出した。ユニフォームをつかんでいたことをボディランゲージを用いて説明することができた。</p>

反省・感想
<p>今回の大きなテーマであった「インフォメーション・ボディランゲージを用いる」を語る前に、やはりレフェリーアカデミー生として「レフェリーとしての立ち振る舞い」がどの試合でも確実にできたとは自信をもって言うことはできない。まずは、「レフェリーとしての立ち振る舞い」を常に意識して、各試合に臨んでいかなければならないと感じた。</p> <p>レフェリーが「インフォメーション・ボディランゲージ」をモチベーションうえて、3つ大事なことがある。</p> <p>1つ目は、選手の安全である。選手の怪我・事故はレフェリーが要因になることが多い。レフェリーのルール理解不足・準備不足によって、選手を危険な目に遭わせることは言語道断である。</p> <p>2つ目は、競技規則の範囲を超えるプレーに対しては罰則、超えないプレーに対してはインフォメーションを用いることである。</p> <p>3つ目は、罰則時に分かりやすく伝えることである。何による罰則なのかジェスチャーを用いる必要がある。また罰則は罰則を起こした選手だけでなく、コート上の選手・ベンチ・会場全体に示さなければならない。</p> <p>「インフォメーション・ボディランゲージ」はレフェリーが選手に伝えて、選手が理解・納得して初めて意味がある。レフェリーから伝えっぱなしでは全く意味も効果もない。またレフェリーは伝えるタイミングを考えなければならない。必要なとき・選手が求めていつときにいかに気づくかが大事となる。</p> <p>個人的にレフェリーアカデミーに参加し、多くのことを学び、吸収して、地元に戻り学んだことを</p>

活かしたり、色々と試してみたりと良いサイクルが出来ている。アカデミーでよりも地元で審判する機会の方が圧倒的に多いので、各試合にテーマ・課題をもって取り組むことを徹底していきたい。

国際レフェリーの候補としてあげてくださっているので、お世話になっている多くの方々への感謝を忘れずに、また今まで以上に意識高く語学力・レフェリングの向上に努めていきたい。